

—檜原村の縄文遺跡と村の名称— (2)

(記 岡本)

藤倉バス停から陣場尾根を登り詰めて小河内峠に到着、峠から清八新道を降って奥多摩湖バス停まで踏破したことがある(2016年2月6日)。

8時40分に藤倉バス停を出発して11時40分頃、陣場尾根の山道右手に「陣場尾根中ノ平遺跡」という案内石板があるのに気付き、「へえー」と驚いた。縄文時代の遺跡が檜原村に存在すること、しかもこんな山岳地帯にあることなど全く知らなかったが故だ。



案内石板には「都道 205 号線 コノ付近 全体縦穴式住居跡 約七〜八千年前ト推定 檜原村教育委員会外考古学者ニテ判明 土器ガ出土シ 出土品ハ 檜原村郷土資料館ニ有リ……第一回発掘 昭和三十五年 第二回発掘 昭和四十九年」とある。案内石板の後方、暗い杉林の中の小さな平坦地に踏み込んでみたが、遺跡らしいものは見つけられなかった。発掘を終えて埋め戻したのかもしれない。

村内では縄文各期(早、前、中、後、晩)の遺跡が 27 カ所確認されている。その中で縄文早期(約 6500 年以上前)の遺跡が 7 カ所存在し、その中で最も有名なのがこの中ノ平遺跡である。昭和 33 年頃藤原地区の村民小林一三が猟に出て土器の破片を発見したのが始まりだった。そして藤原地区出身の小泉新策(五日市在住の医師)が試掘して遺跡と確認された。遺跡は標高 950m に在って、東京都最高点の遺跡とされている。

遺跡からは長野県和田峠の物とみられる黒曜石の石鏃が出土している。和田峠から尾根伝いに原石を持ち帰り中ノ平で加工したらしく黒曜石の破片も発見されている。遺跡からは黒曜石の石鏃と共にとんがり底の押形文土器などの土器、チャート、スクレーパー(ナイフのような刃物)、石斧、石皿、炭化したクリ、クルミなどが出土している。現在では遺跡は針葉樹の植林で囲まれているが、縄文時代は一帯が雑木林で木の実、鳥獣に恵まれていたはずであり、尾根の南面では幼稚な農耕をして芋などを得ていたかも知れない。

縄文早期の遺跡は尾根のように比較的高い所に多いが、中期(約 4000 年前)の遺跡になると村の農家付近のあちこちに存在することになる。数的には中期までの遺跡が多いのに比べ、後期、晩期のものは少なくなる。後期(約 4000 年前〜3000 年前)になると、土瓶型や浅い鉢形の土器、骨製の漁具、投網のオモリ石が発見されている。晩期(約 3000 年前〜2000 年前)になると、漆を塗った土器や首飾り、耳環も見つかっている。漆はこの頃から使われていたのだ。

弥生時代のものとなると極めて少なくなるが、北秋川沿いの小岩にある王子ヶ城遺跡には土偶の他土師器、須恵器など若干の弥生時代の遺物が発見されている。弥生時代の遺跡が少ない理由について、採集生活の時は、木の実や鳥獣が多い山奥が好都合であったが、農耕文化の伝播、発展と共に山岳地帯から平坦地に移住したからとみられる。古墳時代の古墳の遺跡は、現在まで発

見されていないという。檜原村のような環境では住民が少なく古墳を作り得る豪族がいなかっただろうと考えられている。



往時は二、三の家族が協力して集団で住み、猟犬も飼っていた。住居は縦穴式で中央に囲炉裏があった。王子ヶ城遺跡ではそれぞれの期の遺物が発見されていたところから、小岩辺りが大変住みやすかった環境だったとみられている。縄文時代の人口は全体で20人から40人くらいと推定されている。人口が少ない割に広い村域に多くの遺跡があるのは、食料を求めて時代ごとにあちこちらに移住したからとみられる。

話を転じて、檜原(ヒノハラ)の名前について言及するが、結論から言えば、かなり古くからそう呼ばれていたが、その由来は定かではない由である。

奈良時代から平安時代にかけて、橘姓の豪族が居住し橘郷と呼ばれていた。その後、平安末に平氏追討に功のあった平山氏が村を知行地として得た。平山氏の時代に鎌倉の需要に応じて、村からなめし皮、染物材料になった柏の木、山茶油(椿油)を搾る椿の実を産出したため「柏の庄」「椿の庄」と呼ばれた。往時、村の山域には自生した檜、杉、樺の大木が威容を誇っていた。特に檜の葉には神が宿ると信じられていた。現在も門松に檜の葉を使う家がある(中里、茅倉など)。檜は「ヒ」と呼ばれ「カシワ」とも読んだ。原は広い土地の「ハラ」の他に、大もと、つつしむ、みなもと等の意味もある。檜原とは檜などの大木が生茂り重なり合った山容の神秘性から檜(ヒ)の大もと、というところから呼ばれるようになったのだろうとも言う(参考資料郷土史)。

他に関東武士の日野氏に由来するとの説や檜原は元来普通名詞でヒバラと読み「ヒノキの茂った原」という意味であるところからヒノハラに訛伝したとの説もある。要は定かではない。

次回は檜原城跡について触れる。

(了)

#### 参考資料

「郷土史檜原村」 檜原村文化財専門委員会 平成8年3月刊

「檜原村紀聞・その風土と人間」 瓜生卓造著 東書選書 昭和52年6月刊

「やさしい多摩市町村の歴史」 武蔵野郷土史刊行会 昭和56年2月刊